FURUSATO no HOKORI

ふるさとの誇り 其の81

知れば納得「十日市」！

そうだ、今年も十日市に行こう！

毎年2月の10日・11日に開催されている十日市は、市の開かれる十日市場地区だけのお祭ではなく、昔から西郡（にしごおり）地域中の人びとが集い、交流する、南アルプス市全体の風土や歴史を象徴するお祭でもありました。

みなさん、そんな十日市にまつわるいろいろなこと、知っていますか？

その1　十日市が開かれる十日市場は、物流や文化の交差点だった！

十日市場は、静岡方面から富士川をさかのぼってくる文化と長野方面から富士川を下っていく文化の交差点に位置していて、古代から文化の交流拠点でした。

また、地形的にもちょうど、水に乏しい御勅使川扇状地と水の豊かな地域との境界線にあって、それぞれの地域の産物を交換するのに都合の良い場所でもありました。

そんな場所 だ・か・ら・ここで十日市がひらかれているのです！

その2　十日市は、安養寺の門前で開かれるお祭だ！

意外と知られていませんが、みなさんが楽しみにしている十日市は、じつは十日市場の安養寺に安置された鼻採地蔵（はなとりじぞう）［市神地蔵（いちがみじぞう）］さんの門前で開かれる神聖なお祭だったのです。みなさんも、十日市に遊びに行ったら、安養寺の鼻採地蔵さんにもぜひお参りを！

その3　鼻採地蔵さんの「ハナトリ」ってなあに？

田植えの前に、田んぼを平らにならす作業を代かき（しろかき）といいます。二人一組で馬にカキマンガという道具を引かせておこないますが、馬の鼻先を竿で誘導することをハナトリといいます。農繁期に人手が足りないときに安養寺のお地蔵様が子どもに変身して現れ、ハナトリをしてくれたという伝説から、十日市場のお地蔵さんは、鼻採地蔵さんと呼ばれています。十日市場の市神さんは農業を助けてくれる仏様としても信仰をあつめてきました。

代かきの様子

その4　ホントのところ、十日市はいつからはじまったの？

じつはホントのところはわかっていません。でも、十日市場にある法幢院というお寺に納められた仏様を安置する厨子に、「天文３年（1534）十日市場村」という文字が書かれていたことから、少なくともその頃には行われていたことがわかります。天文３年といえば戦国時代、武田信玄さんのお父さんである武田信虎さんが活躍していた時代です。今から480年前になります。しかし、ここが古代から物流や文化の交差点であったことは明らかなので、その起源が更にさかのぼることは確実といえます。

法幢院の厨子

その5　昔は、十日市は年に2回やっていたってホント？

江戸時代には１月の10・12・14日と７月の10・12・14日の年2回、合計６日開催していました。１月の十日市は、お正月の用事や春の農作業の準備のため、７月の十日市は先祖を迎えるお盆の用事を足すために行われました。そのため、春正月の十日市はこの世の人のため、秋七月の十日市はあの世（先祖）の人のために開かれたとも言われています。

しかしいつのころからか、7月の十日市はすたれてしまいました。

その6　昔は、1月10日から。今2月10日からなのはなぜ？

１月10日は旧暦の１月10日です。明治時代になって新暦（現在の暦）が導入されてもしばらくは、この旧暦でおこなっていましたが、その日がだいたい新暦の２月10日にあたることから、現在は２月に行っています。

その7　昔の十日市の様子を書き残してくれた人がいるってホント？

江戸時代のはじめ頃、野呂瀬主税助（のろせちからのすけ）さんという人が書き残してくれました。

まだまだ、いろいろなナルホドがある十日市。**今ふるさと文化伝承館で「野呂瀬主税助と十日市展」をやっています！この機会にぜひご来館を！**